

ごあいさつ

いつも京阪電車をご利用いただきありがとうございます。

当社では、安全で安心な旅客輸送サービスの提供を最大の使命とし、安全管理規程に基づく安全管理体制のもと、安全確保に向けた様々な取り組みを行っております。

近年、集中豪雨により各地で甚大な被害が発生するなど、気象変動等による自然災害のリスクが高まっていることを背景に、当社では橋脚の補強工事や耐水形転てつ機の導入をはじめとしたハード対策を推進しているほか、沿線自治体等と連携し地下施設の浸水対策マニュアルの見直しを行うなど、ソフト対策にも積極的に取り組んでいます。また、30年以内の発生確率が70～80%と予測されている南海トラフ地震などの大規模地震への備えとして、高架橋や駅の耐震補強を着実に実施しています。テロ行為や列車内での粗暴行為などの社会課題に対しては、犯罪抑止を目的として車内防犯カメラの設置を進めているほか、警察等と連携し定期的にテロ対応訓練を実施し、ご利用環境の保安度向上に努めています。

当社線の鉄道利用者数は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類の位置づけとなって以降回復基調にあるものの、コロナ禍前の水準には戻らないものと考えています。経営環境が急激に変化する中で、お客さまに安心してご利用いただける駅環境を安定的に整備すべく、当社では2023年度より「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、ホームドアの新設やバリアフリー設備の適切な維持更新を進めております。また、安全の要となる鉄道従事員の人材教育に注力しており、今後総合研修センターの更なる充実化にも取り組んでまいります。

このように安全に向けた施策に取り組んでいるところではありますが、本報告書に記載の通り、2023年度は社内で定めた安全目標が複数の項目で未達成となりました。この事実と真摯に向き合い、要因を分析し適切な対策を講じるとともに、経営トップによる主体的関与のもと、全社一体となり安全の向上に弛まず努めてゆく決意を新たにしたいと思います。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4に基づき、当社における安全への取り組みを皆様に広くご紹介するために作成しております。本報告書をご一読いただき、皆様の忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。



代表取締役社長 平川 良浩